

私たちの仕事は、特別な日を創ることです

CERESPO NEWS

vol.
108

October
2018

セレスポ

セレスポ・ニュース
平成30年10月発行
第108号

ふくしまビッグスクラム2018

「ここから始まるスポーツの輪」
J-VILLAGE再始動!

スポーツに興味を持つ、応援するきっかけを作りたい



セレスポ
Pick Up

「BEYOND FES 丸の内」
に出展しました!

ふくしまビッグスクラム2018

再始動したJ-VILLAGEで たくさんの人に スポーツを楽しんで欲しい!!



9月2日、福島県双葉郡にあるJ-VILLAGEで「ふくしまビッグスクラム2018」が開催されました。J-VILLAGEはサッカー好きには有名なトレーニングセンター。東日本大震災以降は、復興支援の中継基地として各地の支援に一役買いました。今回は、福島県の企画調整部でスポーツ文化を盛り上げている橘由香里さんに本イベントにかける想いについてお話をうかがいました。

—ビッグスクラム2018を開催するきっかけを教えてください。

橘さん：J-VILLAGEはサッカーのナショナルトレーニングセンターとして有名ですが、ラグビーの施設も充実しています。来年日本で行われるラグビーワールドカップ2019において、公認キャンプの候補地にもなっています。J-VILLAGEが震災復興の中継基地の役割を終えて、スポーツ選手が技やチームワークを磨く場としての再始動を、地域をあげて盛り上げていきたいという想いがありました。

プロや日本代表選手が使うフィールドを体感して欲しい。このフィールドを使っ

て、来場してくれた方に「楽しかった」「こんなスポーツがあったんだ」と感じてもらいたいと考えて、さまざまな体験ができるように企画しました。

特に未来の日本のスポーツを支えてくれる子どもたちに楽しんでもらえるにはどうしたら良いかはセレスポさんの力も借りて、頭をひねりました。気軽に楽しめる「タグラグビー」や「スナッグゴルフ」のほか、目隠しをしてサッカーをするブラインドサッカーや、レーサー仕様の車いすでトラックを走るパラ陸上、頑丈な車いすを使ったウィルチェアラグビーなど、パラスポーツの体験もできるようにしました。



頑丈な車いすでタックルし合いながら、4vs4でボールを運ぶのがウィルチェアラグビー。最初はタックルに躊躇していた子どもも、ゲームが始まるとガンガンぶつかって行っていました。

来場してくれた子どもたちが「もう一度やりたい」「今度はあっちに行こうよ」と言っていたのを見て嬉しくなりました。

こうした体験が「スポーツをやってみよう」というチャレンジ精神や「日本代表を応援しよう」という気持ちにつながってくれたらさらに嬉しいですね!

—イベント開催前、橘さんはどういう気持ちでしたか?

橘さん：開催が決まったときは、期待と不安が半々でした。フィールドを一目見ればどこで何がやっているかわかるようにしたり、来場者が自然な流れで各コーナーを



福島県
企画調整部 文化スポーツ局スポーツ課
橘由香里さん



タグラグビーはタックルの代わりに、腰につけたタグをとるので安全に楽しめます。





ラグビーのルールや練習を実際に体験。実際のパスやトライを教えてもらうほか、サッカーボールと違って思うように飛ばないなど、ラグビーの奥深さが感じられる工夫がされていました。

ラグビー体験

ブラインドサッカー



スナッグゴルフ

パラスポーツ体験

スポーツ義足と競技用車いすが体験できました。義足の固さやレーサーを動かす力強さに驚きの声がたくさん出ていました。



ポッチャ

子どもから高齢者まで一緒になって楽しめるポッチャは家族連れにも大人気。ボールを投げただけなので簡単そうに見えますが、意外に難しい。

ゴルフに初めて触れる人でも簡単にルールが理解できて、手軽に楽しめるのがスナッグゴルフの魅力。子どもたちにも人気で順番待ちの列ができていました。



楽しめるように工夫をするなど、準備をしていく中で「これは楽しくなりそう」とわくわくしてきました。

当日は雨予報で、J-VILLAGEは最寄り駅から遠く、どれだけの方が来てくれるのか不安がありました。でも、「時間前に行ってもスポーツ体験はできますか?」と事前に問い合わせをしてくれた方もいて、当日は最後まで体験の輪が広がっていたのでホッとしました。

来年は全天候型の施設や電車が延伸してJ-VILLAGE駅も完成するので、県外の方にも来場いただけるイベントを行いたいと考えています。

EventData

- ぶくしまビッグスクラム2018
- 2018年9月2日
- J-VILLAGE
- 主催:福島県

インタビュー所感

私もスポーツ義足や競技用車いすを体験させていただきましたが、思った以上にスピードが出せるのでとても楽しいラグビーボールを蹴らせてもらったときは思ったところに飛ばせずに四苦八苦。トップアスリートの凄さも体感できました。「スポーツに興味を持つ、応援するきっかけにして欲しい」その想いが来場者に届くイベントだと感じました。



REPORT 株式会社セレスポ 福島支店 金子 友(かねこ ゆう)

イベントの仕事は「大きな笑顔の輪を作る」ことができる

このイベントでは、企画提案から事務局や会場設営、警備、広報など幅広く関わらせていただきました。あのJ-VILLAGEが再始動すること、プロ選手が実際に使っているフィールドでスポーツ体験ができるなど、魅力が多いイベントです。多くの方にその魅力が伝わるようテレビ局に協力いただいて、PR面にも力を入れました。

また、会場ではパラスポーツなど、体験する機会が少ない競技にも積極的に触れていただきたいと考えて、スタンプラリーを実施。スタン

プを全部集めた後で、気に入ったスポーツを再度体験している子どもたちが多かったので「よし!」と思いました。

イベントの仕事は「大きな笑顔の輪を作る」ことができます。本イベントのスローガンは「ここから始まるスポーツの輪」。みんなの「楽しい」がイベントを通して輪になっていく。これは一人ひとりの力を、フィールド上でひとつの輪にして戦うラグビーと同じ感覚だと思います。

イベントに来てくれた来場者の笑顔を見れば、私たちスタッフも自然に笑顔になってい



きますよね。本イベントでは、来場者やスタッフもひとつの輪になれたと感じました。日本ではこれから大型のスポーツイベントが開催されます。少しでもこの輪を大きくしていきたいので、チームでスクラムを組んで挑戦していきます。

セレスポ
Pick Up

「BEYOND FES 丸の内」に出展しました!



2018年10月13・14日に、東京都が主催する「BEYOND FES 丸の内」にて、セレスポは「パラ陸上」をテーマに、パラリンピアン永尾嘉章さんのトークショーや競技用車いすを使った走行体験やスピードチャレンジ、義足歩行の体験ができるブースを出展しました。パラリンピアンの方から語られるリアルな体験や今後の展望を聞いたり、展示や体験を通じて自分の体で感じたりしながら、パラスポーツの魅力を感じていただけたのではないのでしょうか。今後も、パラスポーツの面白さや奥深さをみなさまにお届けしてまいります。



パラリンピアン永尾嘉章さん(右)によるトークショー



パラ陸上の展示ブースです。たくさんのかたに訪れていただきました。



目隠しをして、伴走者を頼りに歩く体験。

手すりを使わずに義足で歩くのはかなり難しいです。



初めての競技用義足にドキドキ…



永尾さんにコツを教えてもらいながら競技用車いすに挑戦!



発行 発行日：平成30年10月25日

発行元 株式会社セレスポ (CERESPO CO.,LTD.)
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5 (本社)
TEL：03(5974)1111 FAX：03(5394)7651
<http://www.cerespo.co.jp/>

編集 山川 譲 (yawn)
記事 コーポレートデザイン室
デザイン 山本制作所
CERESPO NEWSに関するお問い合わせは
株式会社セレスポ コーポレートデザイン室(cd@cerespo.co.jp)まで

編集後記

復興支援の中継基地として役目を担った「J-VILLAGE」。たくさんの方々の笑顔と好奇心が溢れる空間になりました。一人ひとり、スポーツの楽しさや価値を感じる場面は違うと思います。だからこそ、できるだけ多くのスポーツを“知って”“見て”“体験”して感じてほしい。初めてのことに出会ったときのワクワク感は忘れられませんよね。それは子どもも大人も同じだと思います。「面白い」「楽しい」「難しい」「もっとやりたい」スポーツに対して素直に感じた想いを大切に、それぞれのスポーツの楽しみ方を見つけてほしいと思います。再始動を遂げた「J-VILLAGE」の地から、また新たなスポーツ文化を築き、みんなで一緒に盛り上げていきたいですね。